

2022年 2月 8日 (火)

サトーホールディングス株式会社

2022年3月期 第3四半期 決算説明資料

証券コード : 6287

決算ハイライト

【連結】

Q3累計（4～12月）は前年同期比で増収・増益

Q3（10～12月）は同増収・減益

【自動認識ソリューション事業 海外】

Q3累計・Q3ともに増収・増益。Q3の売上は過去最高を更新

- ベース事業：需要旺盛で、一過性のコスト増にもQ3累計・Q3とも増収・増益。
Q3の売上、営業利益は過去最高を更新
- プライマリー専業：需要強くQ3累計は増収・増益。原価高でQ3は増収・減益

【自動認識ソリューション事業 日本】

Q3累計は、マニユファクチャリングやロジがけん引して増収。
一過性のコスト増や成長投資により減益。

Q3は、リテール等での前年同期の大口剥落を、マニユやロジの回復継続でカバーして売上横ばい。コスト増等で減益

事業セグメント別売上高及び営業利益

(単位：百万円)

		FY2021 Q3累計	FY2020 Q3累計	前年比	除く為替
自動認識 ソリューション事業	売上高	92,388	79,135	+16.7%	+14.0%
	営業利益	4,665	3,822	+22.1%	+19.4%
	海外	売上高	29,059	+34.5%	+27.0%
		営業利益	1,804	+64.9%	+58.2%
	日本	売上高	50,075	+6.5%	+6.5%
		営業利益	2,018	-16.2%	-15.3%
	IDP事業	売上高	136	-	-
		営業利益	-148	-	-
連結（消去後）	売上高	92,388	79,271	+16.5%	+13.8%
	営業利益	4,743	3,777	+25.6%	+22.9%

事業セグメント別売上高及び営業利益

(単位：百万円)

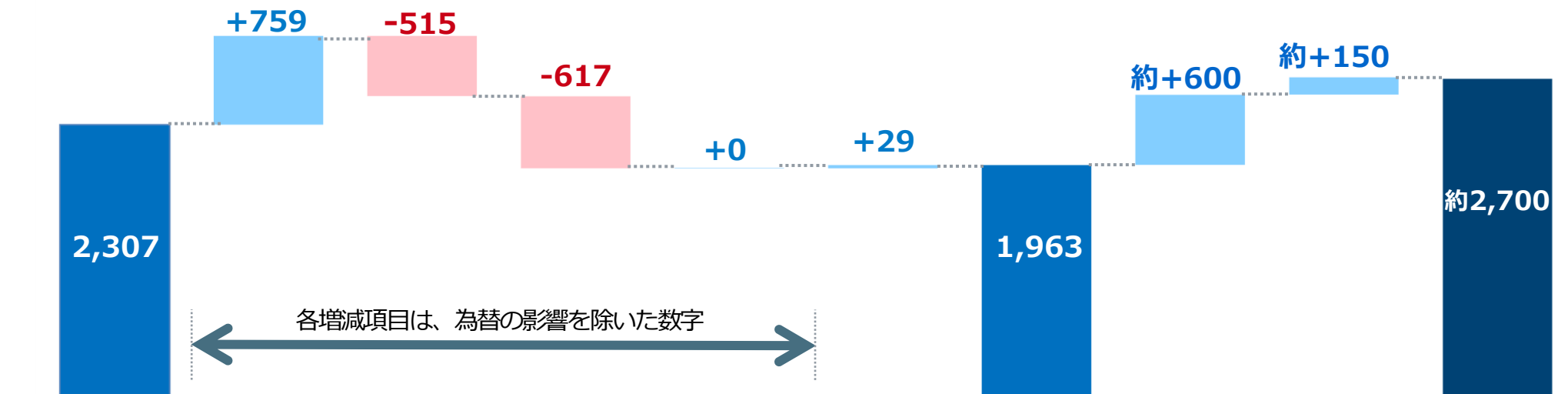
		FY2021 Q3	FY2020 Q3	前年比	除く為替	
自動認識 ソリューション事業	売上高	32,126	29,398	+9.3%	+5.7%	
	営業利益	1,903	2,213	-14.0%	-15.3%	
	海外	売上高	13,788	11,045	+24.8%	+15.4%
		営業利益	1,101	1,043	+5.6%	-1.4%
	日本	売上高	18,337	18,352	-0.1%	-0.1%
		営業利益	801	1,170	-31.5%	-27.8%
	IDP事業	売上高	0	0	-	-
		営業利益	0	0	-	-
連結（消去後）	売上高	32,126	29,398	+9.3%	+5.7%	
	営業利益	1,963	2,307	-14.9%	-16.2%	

営業利益前年との比較

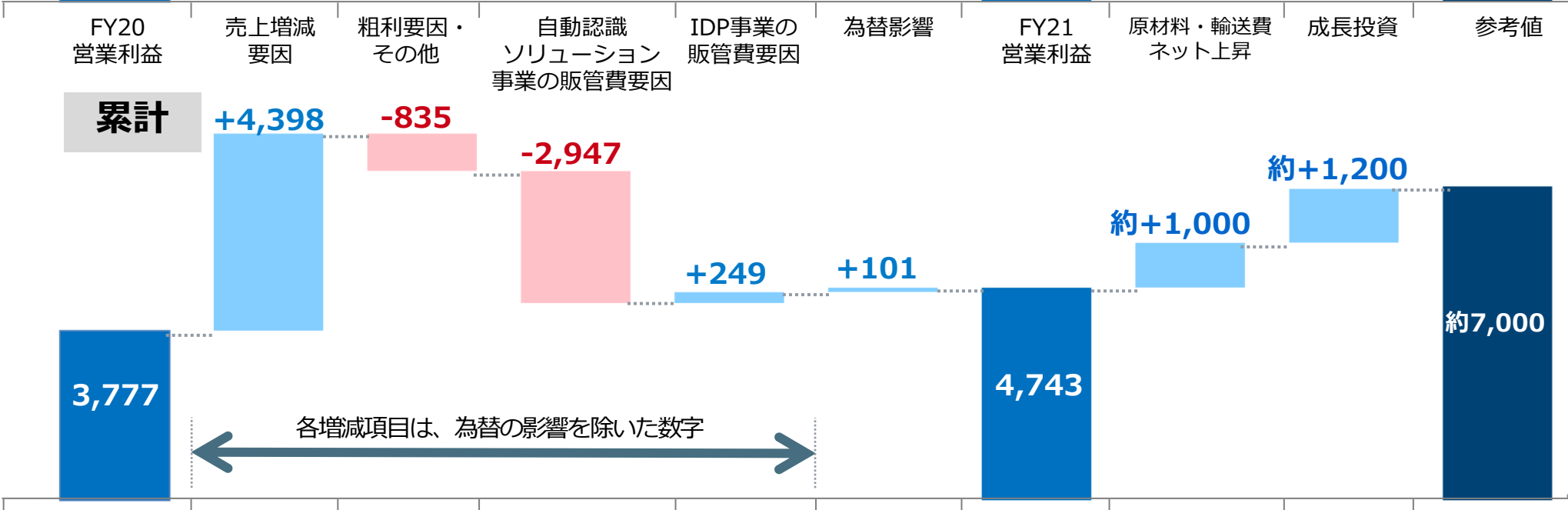
※p.20記載の「計上区分の変更」は考慮せず

(単位：百万円)

Q3
10~12月



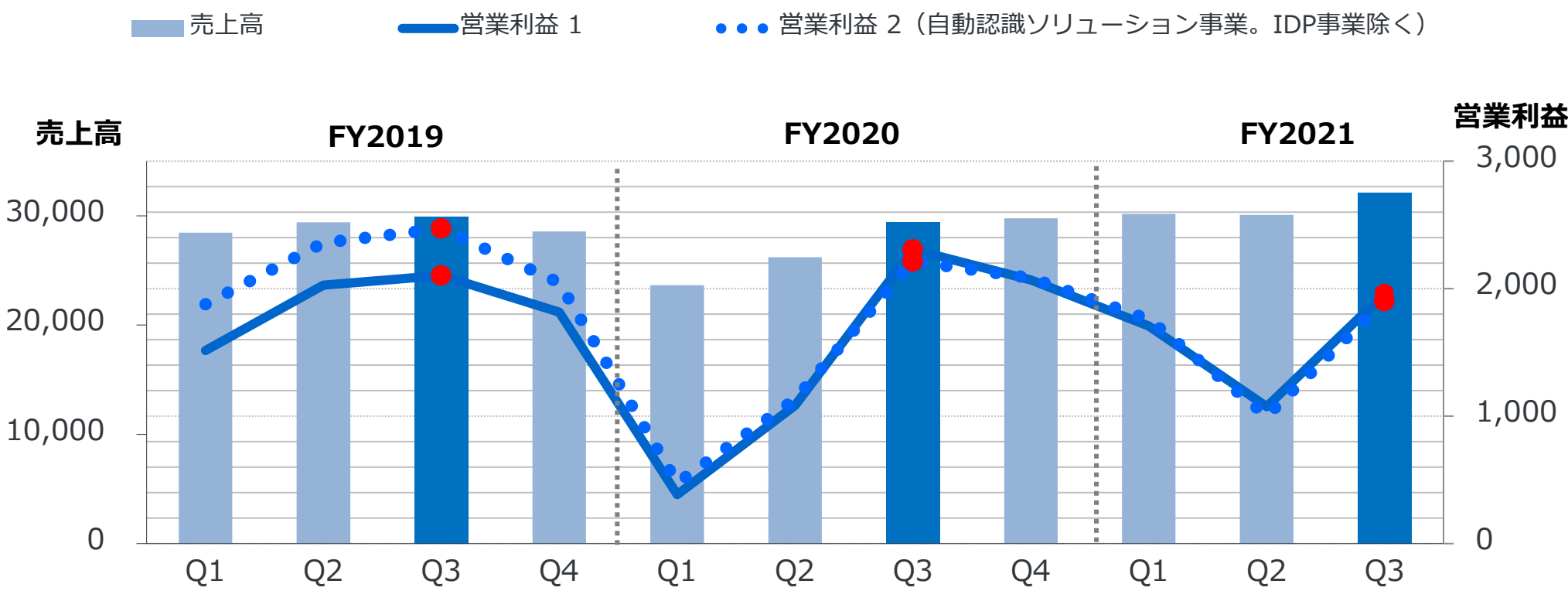
各増減項目は、為替の影響を除いた数字



各増減項目は、為替の影響を除いた数字

売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



売上高	28,463	29,411	29,928	28,569	23,651	26,221	29,398	29,781	30,177	30,084	32,126
前年比	+1.2%	+3.7%	-1.1%	-2.9%	-16.9%	-10.8%	-1.8%	+4.2%	+27.6%	+14.7%	+9.3%
営業利益 1	1,514	2,028	2,103	1,815	385	1,084	2,307	2,069	1,706	1,073	1,963
前年比	+2.7%	+8.5%	+0.1%	-18.8%	-74.5%	-46.5%	+9.7%	+14.0%	4.4倍	-1.0%	-14.9%
営業利益 2	1,878	2,360	2,471	2,047	476	1,132	2,213	2,083	1,760	1,001	1,903
前年比	+5.7%	+3.8%	-2.5%	-22.3%	-74.6%	-52.0%	-10.4%	+1.8%	3.7倍	-11.5%	-14.0%

業績

(単位：百万円)

	FY2021 Q3累計	FY2020 Q3累計	増減	前年比
売上高	92,388	79,271	+13,116	+16.5%
営業利益	4,743	3,777	+966	+25.6%
営業利益率	5.1%	4.8%	+0.4pt	-
経常利益	4,610	3,469	+1,140	+32.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 ※1	2,952	11,604	-8,651	-74.6%
実効税率 ※2	31.9%	8.3%	+23.6pt	-
EBITDA ※3	8,087	7,030	+1,057	+15.0%

FY21 Q3累計 為替レート（期中平均）：111.13円/USD, 130.59円/EUR （FY20 Q3累計 同為替レート：106.11円/USD, 122.43円/EUR）
 為替感応度：すべての通貨が1円/USDの円安に連動した場合、売上高+459百万円、営業利益+17百万円（FY21通期ベース）

※1 FY20 Q3に旧日本社売却にともなう固定資産売却益を計上

※2 親会社株主に属する四半期純利益、実効税率

FY2020は、IDP事業譲渡に伴い、前期末に親会社で計上したDataLase社株式の減損損失に係る法人税等調整額の計上あり

※3 EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

・減価償却 FY21 Q3累計：3,166百万円

・のれん償却 FY21 Q3累計：176百万円

FY20 Q3累計：3,084百万円

FY20 Q3累計：168百万円

業績

(単位：百万円)

	FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減	前年比
売上高	32,126	29,398	+2,727	+9.3%
営業利益	1,963	2,307	-343	-14.9%
営業利益率	6.1%	7.8%	-1.7pt	-
経常利益	1,914	2,237	-323	-14.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 ※1	1,103	8,354	-7,250	-86.8%
実効税率	40.4%	31.4%	+9.1pt	-
EBITDA ※2	3,112	3,379	-267	-7.9%

FY21 Q3累計 為替レート (期中平均) : 111.13円/USD, 130.59円/EUR (FY20 Q3累計 同為替レート : 106.11円/USD, 122.43円/EUR)
 為替感応度 : すべての通貨が1円/USDの円安に連動した場合、売上高+459百万円、営業利益+17百万円 (FY21通期ベース)

※1 FY20 Q3に旧本社売却にともなう固定資産売却益を計上

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

・減価償却 FY21 Q3単体 : 1,089百万円

FY20 Q3単体 : 1,018百万円

・のれん償却 FY21 Q3単体 : 59百万円

FY20 Q3単体 : 54百万円

総括

Q3
10~12月

旺盛な需要を確実に捉えて全地域で増収。ラベル原紙やプリンタ部材の一時的なコスト増等をはねのけ、海外全体で増益を確保

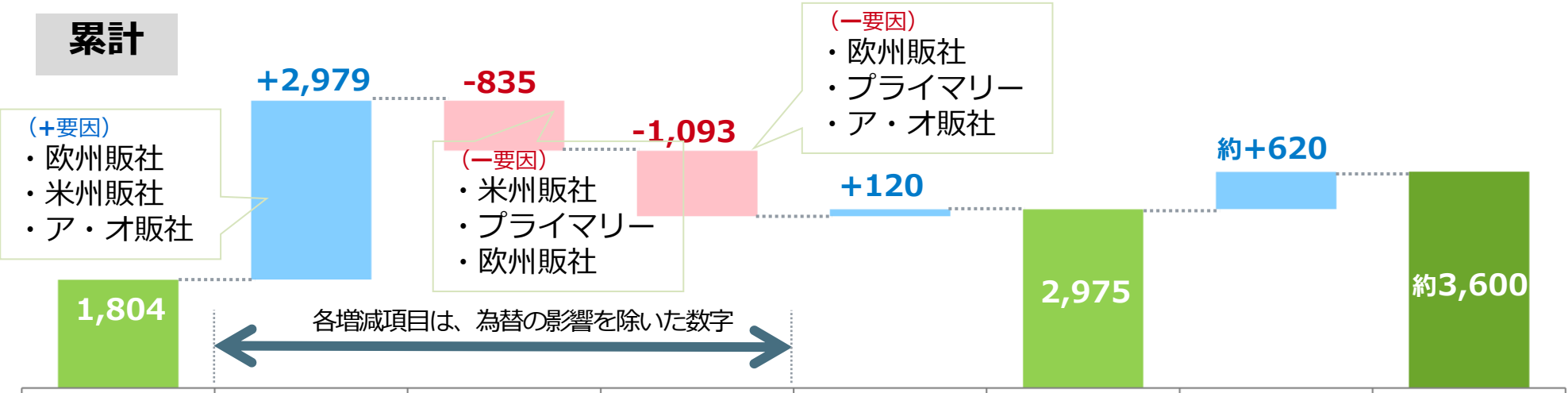
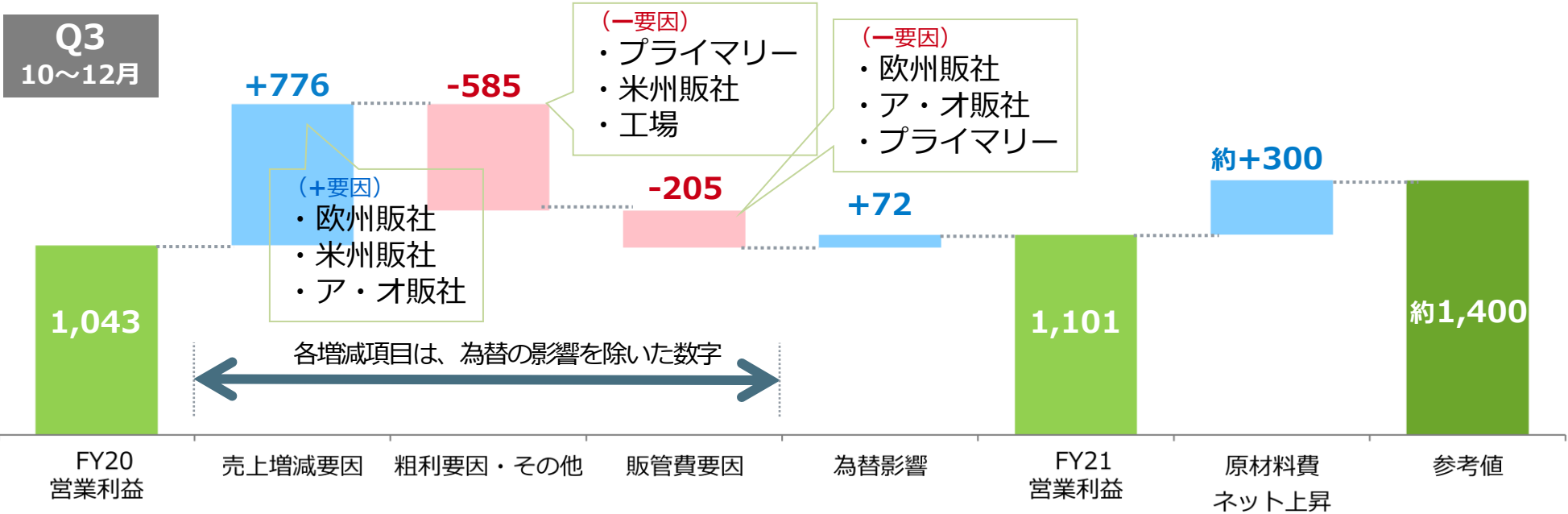
(単位：百万円)

	FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減	%	除く為替
売上高	13,788	11,045	+2,742	+24.8%	+15.4%
粗利額	4,602	4,093	+508	+12.4%	-
粗利率（外売）	33.4%	37.1%	-3.7pt	-	-
営業利益	1,101	1,043	+58	+5.6%	-1.4%
営業利益率	8.0%	9.4%	-1.5pt	-	-

	FY2021 累計	FY2020 累計	増減	%	除く為替
売上高	39,072	29,059	+10,013	+34.5%	+27.0%
粗利額	13,288	10,416	+2,871	+27.6%	-
粗利率（外売）	34.0%	35.8%	-1.8pt	-	-
営業利益	2,975	1,804	+1,170	+64.9%	+58.2%
営業利益率	7.6%	6.2%	+1.4pt	-	-

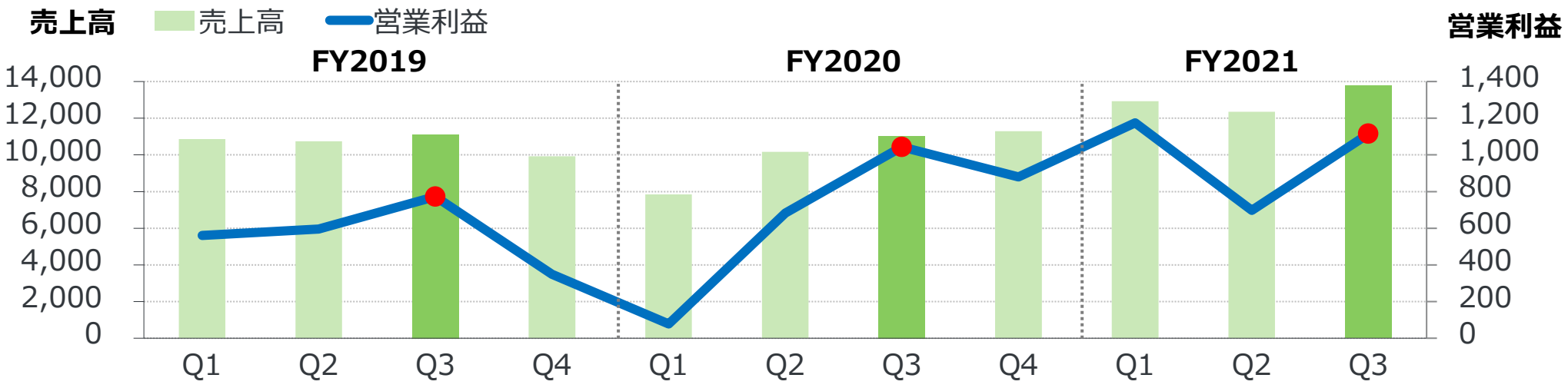
営業利益前年との比較

(単位：百万円)



売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



売上高	10,867	10,739	11,118	9,922	7,844	10,168	11,045	11,290	12,929	12,354	13,788
前年比	-0.4%	+0.5%	-2.6%	-3.7%	-27.8%	-5.3%	-0.7%	+13.8%	+64.8%	+21.5%	+24.8%
営業利益	560	595	772	349	77	683	1,043	880	1,175	698	1,101
前年比	+1.2%	-10.7%	+14.6%	+1.4%	-86.1%	+14.8%	+35.1%	2.5倍	15.1倍	+2.2%	+5.6%

事業別内訳

Q3
10~12月

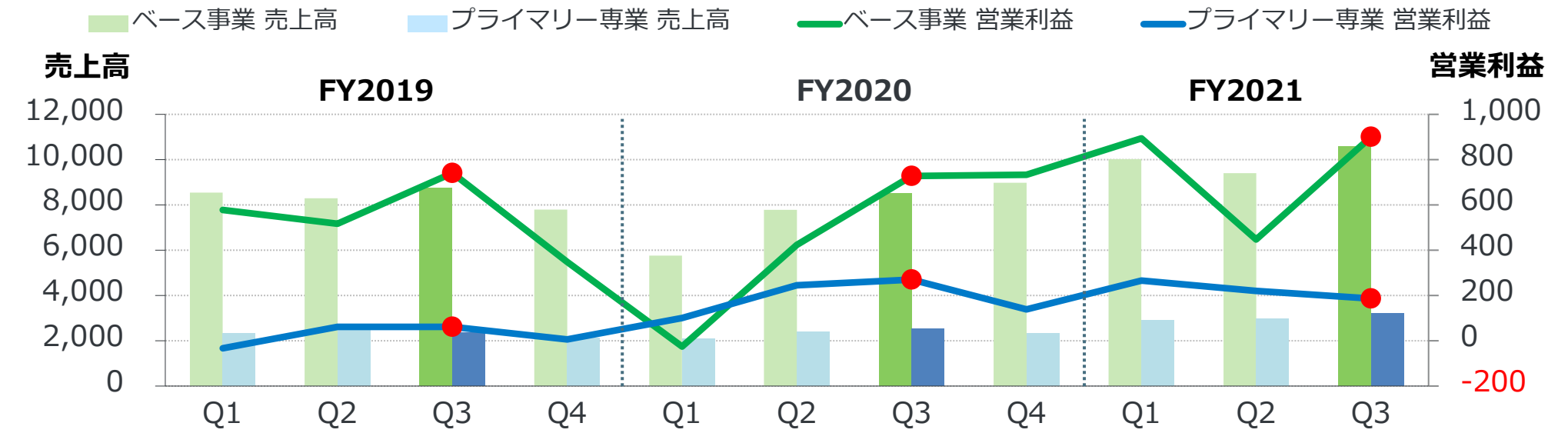
ベース事業：供給制約への組織的対応により、リテールを中心にプリンタがけん引して増収。
一時的なコスト増などをこなして増益
プライマリー専業：生活インフラ業界向けが堅調で増収。急激な原価上昇などの影響で減益
(単位：百万円)

		FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	10,578	8,499	+2,079	+24.5%	+15.8%
	営業利益	900	727	+172	+23.7%	+15.1%
プライマリー専業	売上高	3,209	2,546	+663	+26.1%	+14.1%
	営業利益	186	270	-84	-31.0%	-34.7%
消去	営業利益	14	45	-30	-67.9%	-67.9%
合計	売上高	13,788	11,045	+2,742	+24.8%	+15.4%
	営業利益	1,101	1,043	+58	+5.6%	-1.4%

		FY2021 累計	FY2020 累計	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	30,002	22,034	+7,967	+36.2%	+27.6%
	営業利益	2,242	1,124	+1,118	+99.5%	+86.8%
プライマリー専業	売上高	9,070	7,025	+2,045	+29.1%	+25.3%
	営業利益	673	616	+56	+9.2%	+12.8%
消去	営業利益	58	63	-4	-7.6%	-7.6%
合計	売上高	39,072	29,059	+10,013	+34.5%	+27.0%
	営業利益	2,975	1,804	+1,170	+64.9%	+58.2%

事業別 売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



ベース	売上高	8,539	8,286	8,758	7,794	5,755	7,779	8,499	8,976	10,023	9,399	10,578
	前年比	-2.2%	-1.6%	-3.9%	-6.8%	-32.6%	-6.1%	-3.0%	+15.2%	+74.2%	+20.8%	+24.5%
	営業利益	577	517	740	348	-26	423	727	733	894	447	900
	前年比	+21.1%	-3.9%	+9.2%	-27.1%	-	-18.2%	-1.8%	2.1倍	-	+5.8%	+23.7%
プライマリー	売上高	2,328	2,453	2,360	2,128	2,089	2,389	2,546	2,313	2,905	2,955	3,209
	前年比	+6.8%	+8.3%	+2.5%	+9.7%	-10.3%	-2.6%	+7.9%	+8.7%	+39.1%	+23.7%	+26.1%
	営業利益	-33	61	61	6	100	245	270	139	266	220	186
	前年比	-	-58.3%	4.9倍	-	-	4.0倍	4.4倍	22.0倍	2.6倍	-10.1%	-31.0%

米州

Q3
10～12月

ベース事業：活況な米国のリテール市場におけるプリンタ販売がけん引して増収。
ラベル原紙の価格上昇などがあり、減益
プライマリー専業：売上は横ばい。主に原価上昇で減益

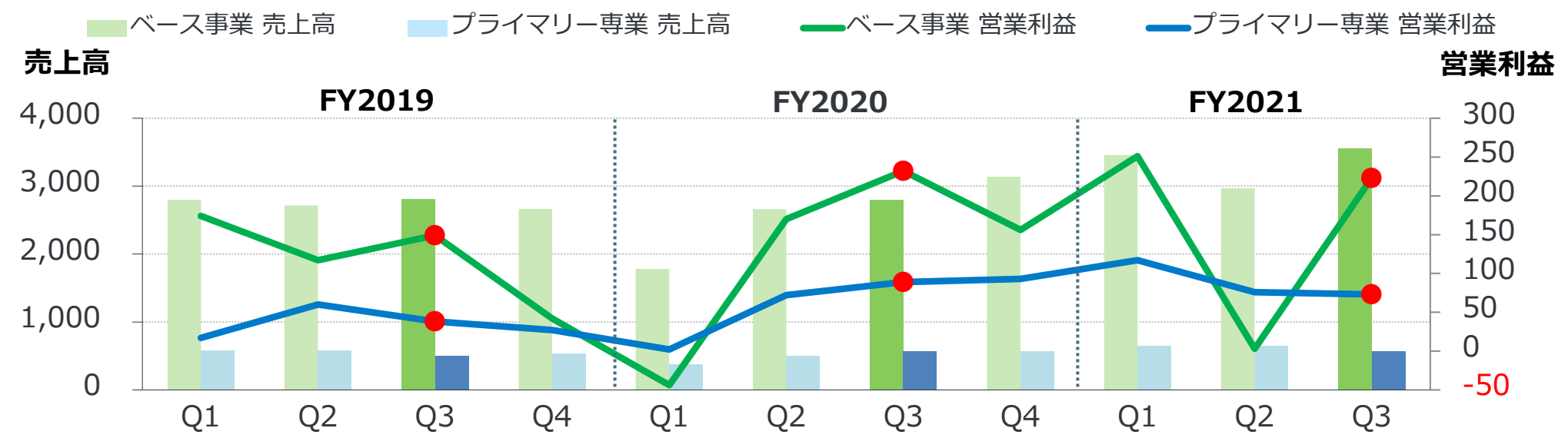
(単位：百万円)

		FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	3,554	2,794	+759	+27.2%	+18.0%
	営業利益	223	232	-8	-3.6%	-9.5%
プライマリー専業 ・ Achernar社 ・ Prakolar社	売上高	576	571	+4	+0.8%	+3.7%
	営業利益	73	89	-16	-18.0%	-9.4%
合計	売上高	4,131	3,366	+764	+22.7%	+15.5%
	営業利益	297	322	-24	-7.6%	-9.4%

		FY2021 累計	FY2020 累計	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	9,983	7,236	+2,746	+38.0%	+32.4%
	営業利益	479	358	+120	+33.7%	+29.7%
プライマリー専業 ・ Achernar社 ・ Prakolar社	売上高	1,869	1,448	+420	+29.0%	+36.7%
	営業利益	267	165	+101	+61.7%	+88.2%
合計	売上高	11,852	8,685	+3,167	+36.5%	+33.1%
	営業利益	746	523	+222	+42.6%	+48.2%

米州 売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



ベース	売上高	2,797	2,714	2,811	2,664	1,781	2,660	2,794	3,140	3,458	2,970	3,554
	前年比	-2.0%	+2.8%	-7.6%	-3.2%	-36.3%	-2.0%	-0.6%	+17.8%	+94.2%	+11.6%	+27.2%
	営業利益	174	117	149	42	-44	170	232	156	251	3	223
	前年比	4.1倍	17.0倍	-	3.8倍	-	+45.6%	+54.8%	3.6倍	-	-97.8%	-3.6%
プライマリー	売上高	577	586	497	536	378	498	571	576	648	643	576
	前年比	+5.6%	+0.4%	-15.2%	-2.5%	-34.5%	-15.0%	+14.9%	+7.3%	+71.4%	+29.2%	+0.8%
	営業利益	17	60	38	27	2	72	89	93	117	76	73
	前年比	+86.3%	+76.8%	3.2倍	-1.1%	-85.4%	+19.8%	2.3倍	3.4倍	45.9倍	+4.7%	-18.0%

欧州

Q3
10~12月

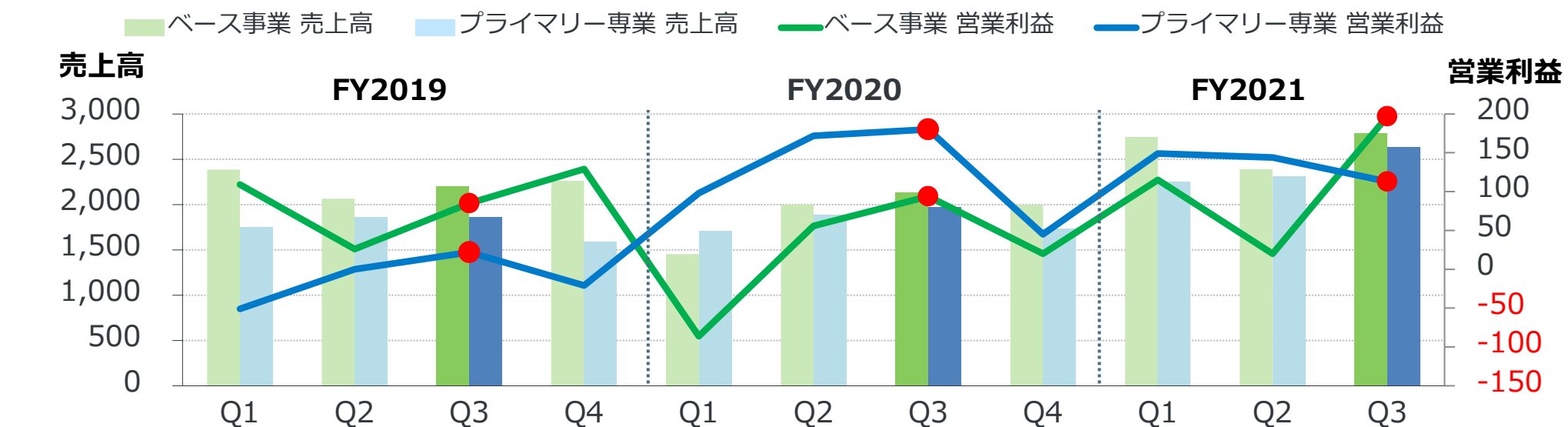
ベース事業：食品スーパーや外食など好調業界に引き続き注力し、増収。
増収効果がコスト増を吸収して増益
プライマリー専業：ロシアのOkil社における食品・飲料など既存ビジネスの深耕により増収。
原紙や業容拡大による労務費などの原価上昇の影響により減益 (単位：百万円)

		FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	2,785	2,137	+648	+30.4%	+23.2%
	営業利益	197	94	+103	2.1倍	2.0倍
プライマリー専業 ・ Okil社 ・ X-Pack社	売上高	2,633	1,974	+658	+33.4%	+17.2%
	営業利益	113	180	-67	-37.5%	-47.2%
合計	売上高	5,419	4,111	+1,307	+31.8%	+20.3%
	営業利益	310	274	+35	+13.1%	+3.3%

		FY2021 累計	FY2020 累計	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	7,924	5,591	+2,333	+41.7%	+31.5%
	営業利益	334	64	+270	5.2倍	4.9倍
プライマリー専業 ・ Okil社 ・ X-Pack社	売上高	7,201	5,576	+1,624	+29.1%	+22.3%
	営業利益	406	451	-45	-10.0%	-14.8%
合計	売上高	15,126	11,167	+3,958	+35.4%	+26.9%
	営業利益	740	515	+225	+43.7%	+35.8%

欧州 売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



ベース	売上高	2,386	2,066	2,205	2,264	1,453	2,000	2,137	1,996	2,746	2,391	2,785
	前年比	+3.1%	-4.4%	-5.4%	-0.7%	-39.1%	-3.2%	-3.1%	-11.8%	+89.0%	+19.5%	+30.4%
	営業利益	109	26	85	129	-86	56	94	20	115	20	197
	前年比	-0.8%	-10.7%	+61.7%	+11.1%	-	2.2倍	+9.6%	-84.2%	-	-63.8%	2.1倍
プライマリー	売上高	1,751	1,867	1,862	1,591	1,711	1,891	1,974	1,737	2,256	2,311	2,633
	前年比	+7.2%	+11.1%	+8.6%	+14.6%	-2.3%	+1.3%	+6.0%	+9.2%	+31.9%	+22.2%	+33.4%
	営業利益	-51	0	22	-21	98	172	180	45	149	144	113
	前年比	-	-	36.2倍	-	-	-	8.0倍	-	+51.8%	-16.3%	-37.5%

アジア・オセアニア

Q3
10～12月

ベース事業：ほぼすべての販社で増収。特に中国販社がけん引。プリンタ部材等の一時的なコスト増による工場利益の減少を吸収し、増益

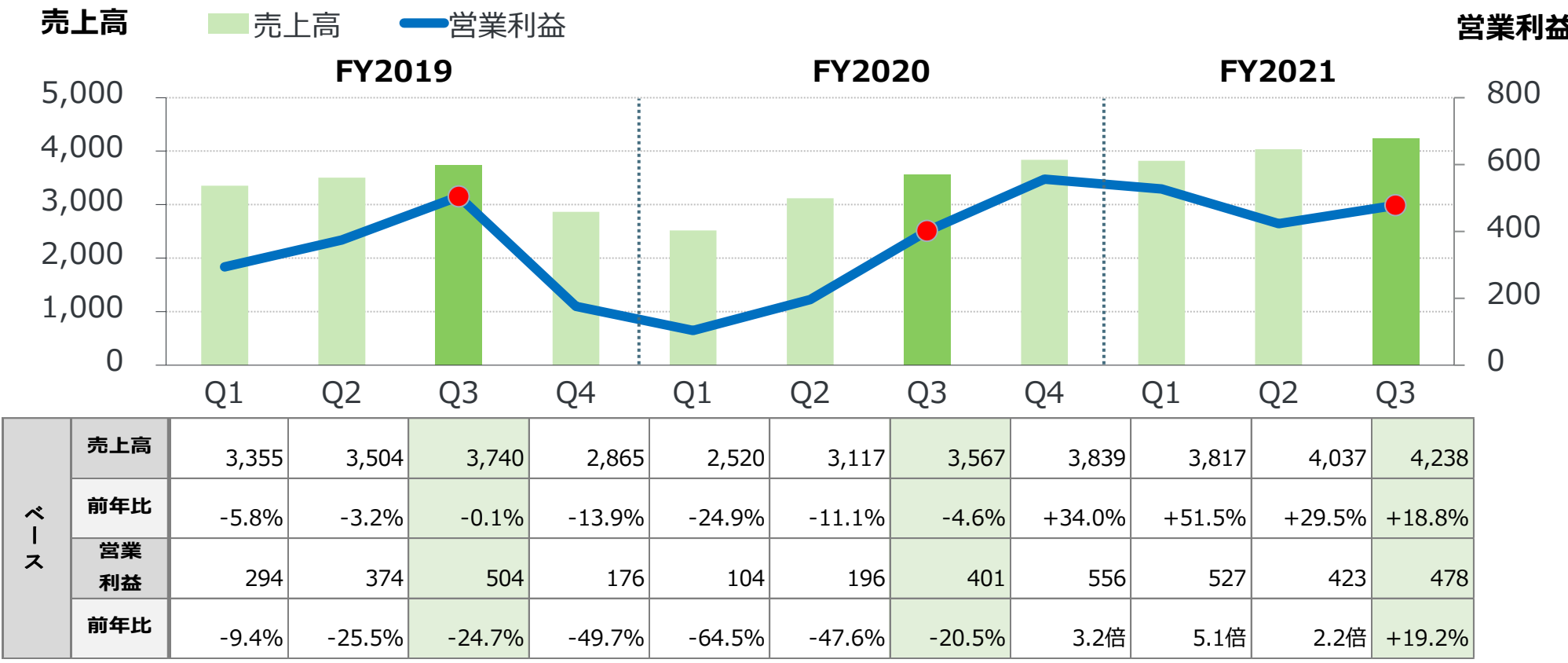
(単位：百万円)

		FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	4,238	3,567	+670	+18.8%	+9.6%
	営業利益	478	401	+77	+19.2%	+9.4%

		FY2021 累計	FY2020 累計	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	12,093	9,206	+2,887	+31.4%	+21.4%
	営業利益	1,429	701	+727	2.0倍	+88.1%

アジア・オセアニア 売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



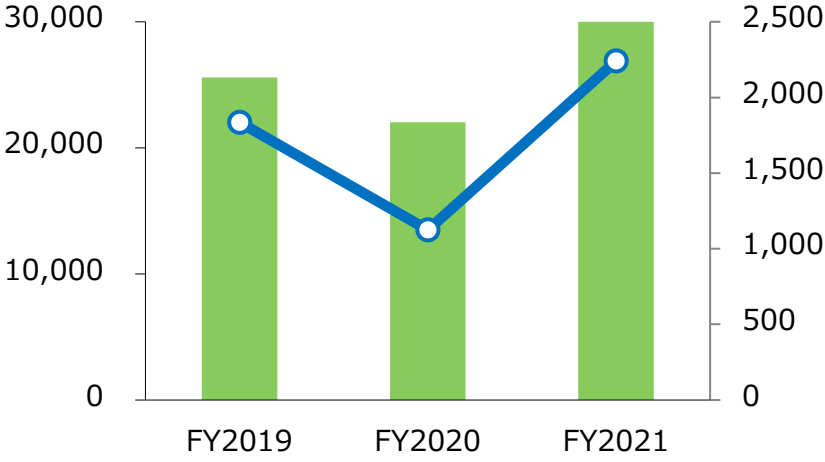
事業別及び地域別売上高及び営業利益推移

事業別

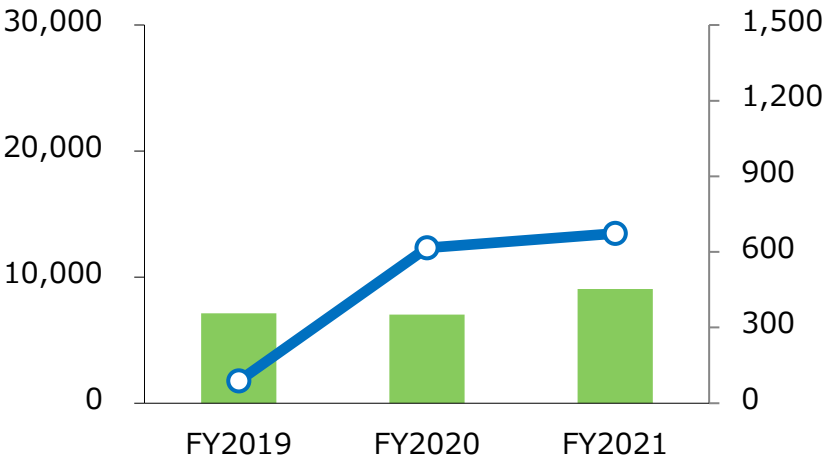
売上高 営業利益

(単位：百万円、左軸：売上高、右軸：営業利益)

ベース事業

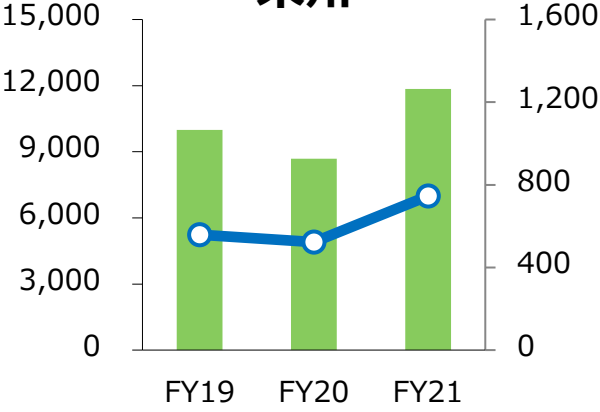


プライマリー専業

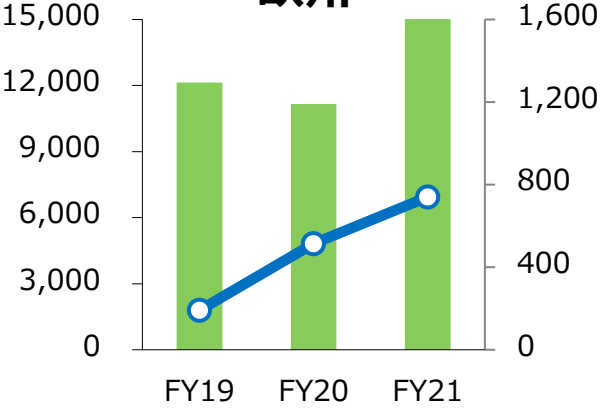


地域別

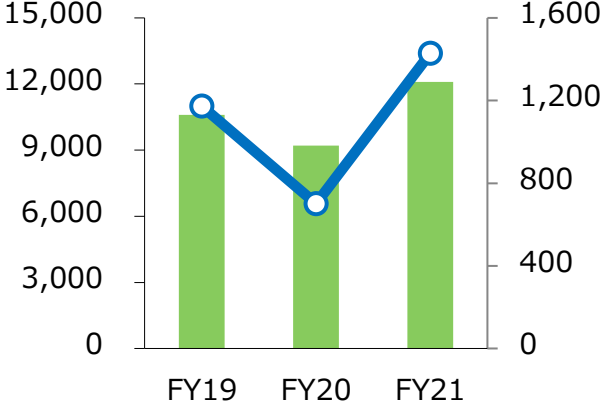
米州



欧州



アジア・オセアニア



総括

Q3
10～12月

売上横ばい。リテール等での前年同期の大口剥落を、マニユやロジの回復継続でカバー。
市場ミックス良化も、部材などの原価上昇、成長投資や輸送コスト上昇などで減益

(単位：百万円)

	FY2021 Q3	FY2020 Q3	増減	前年比
メカトロ売上高	6,933	7,027	-94	-1.3%
サプライ売上高	11,417	11,325	+92	+0.8%
外部売上高 計	18,337	18,352	-14	-0.1%
粗利額	8,453	8,662	-209	-2.4%
粗利率（外売）	46.1%	47.2%	-1.1pt	-
営業利益	801	1,170	-368	-31.5%
営業利益率	4.4%	6.4%	-2.0pt	-

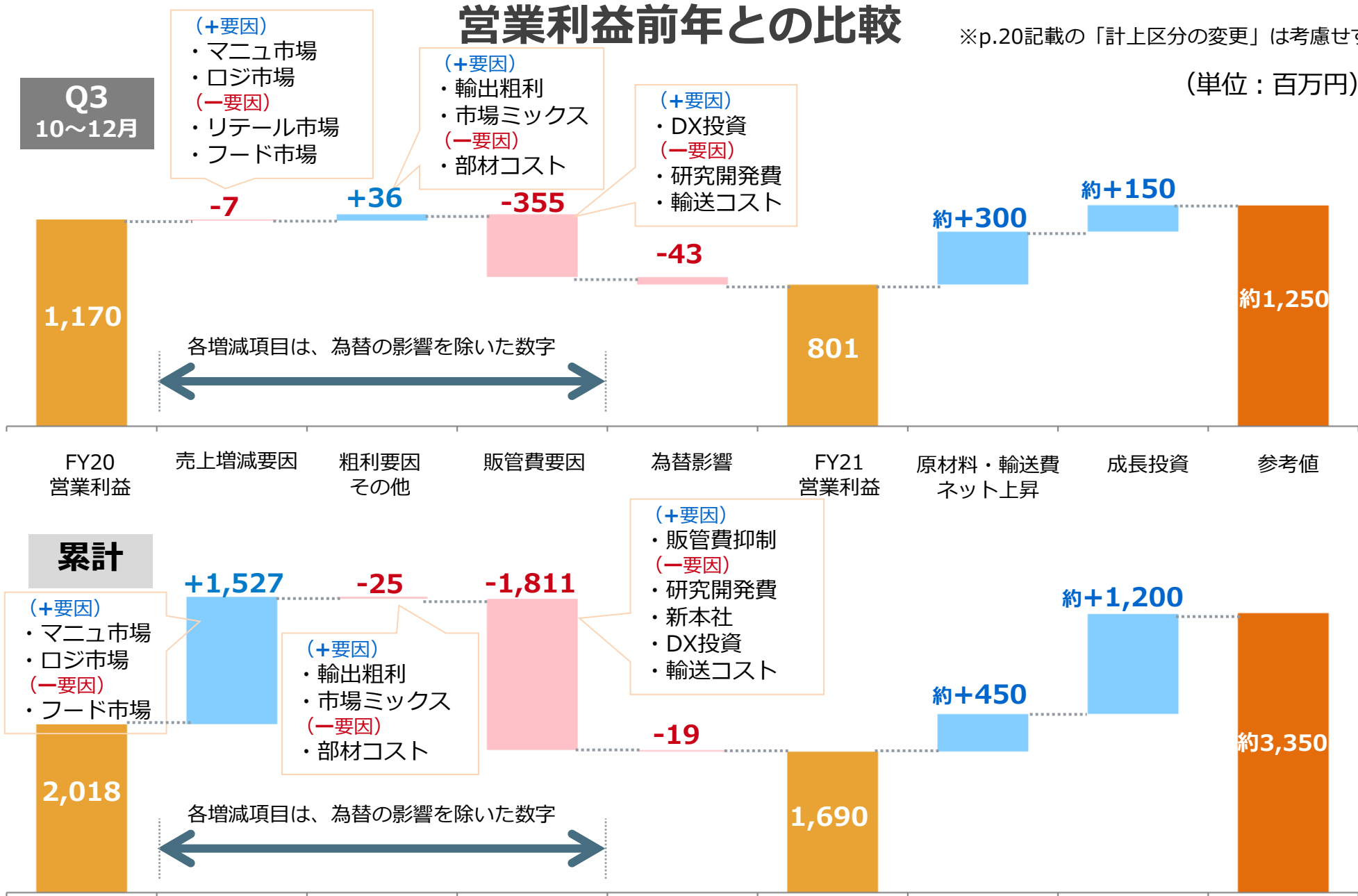
	FY2021 累計	FY2020 累計	増減	前年比
メカトロ売上高	21,010	19,524	+1,485	+7.6%
サプライ売上高	32,349	30,551	+1,798	+5.9%
外部売上高 計	53,315	50,075	+3,239	+6.5%
粗利額	24,903	23,616	+1,287	+5.5%
粗利率（外売）	46.7%	47.2%	-0.5pt	-
営業利益	1,690	2,018	-327	-16.2%
営業利益率	3.2%	4.0%	-0.9pt	-

メカトロ：プリンタやラベル自動貼付機器、スキャナ、ハンドラベラーなどのハードウェア、ソフトウェア、保守サポートなど
サプライ：消耗品。可変情報ラベル、RFIDタグ、プライマリーラベル（商品シール）、リボンなど
※1：外部売上計はメカトロ、サプライ、その他の合算
※2：粗利率低下の主因は、保守に関わる費用の販管費から原価への計上区分変更

営業利益前年との比較

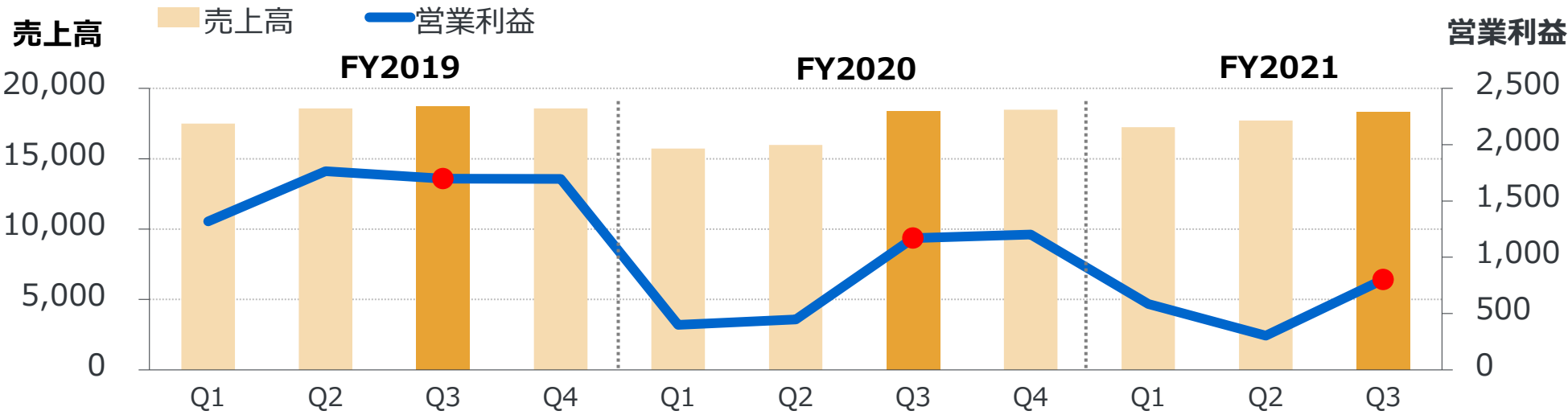
※p.20記載の「計上区分の変更」は考慮せず

(単位：百万円)



売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



売上高	17,495	18,578	18,709	18,578	15,730	15,991	18,352	18,490	17,248	17,729	18,337
前年比	+2.4%	+5.7%	-0.1%	-2.4%	-10.1%	-13.9%	-1.9%	-0.5%	+9.6%	+10.9%	-0.1%
営業利益	1,318	1,765	1,698	1,697	399	448	1,170	1,203	585	303	801
前年比	+7.7%	+9.8%	-8.7%	-25.9%	-69.7%	-74.6%	-31.1%	-29.1%	+46.7%	-32.4%	-31.5%

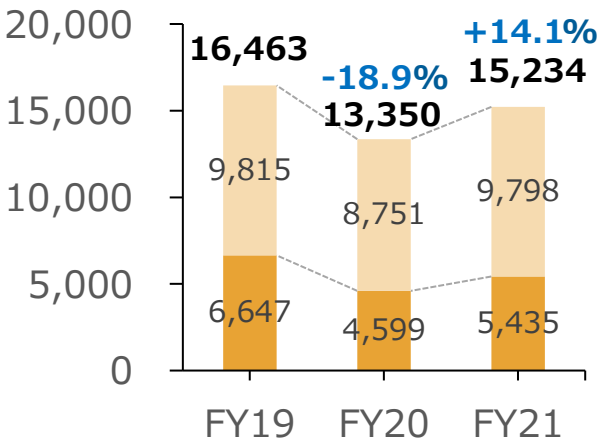
市場別売上高推移

注：2021年度より市場区分を改定
2019年度及び2020年度数値は遡及修正後

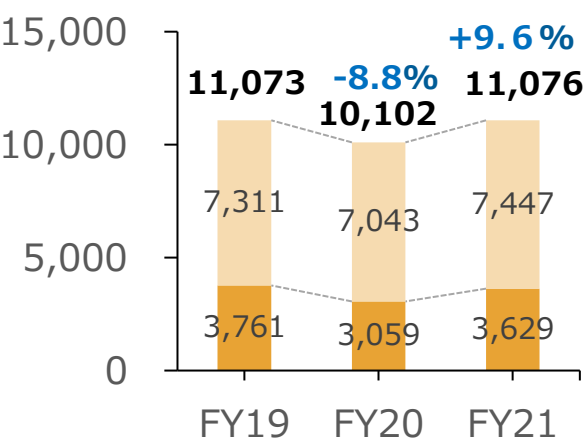
■：メカトロ ■：サプライ ※%は前年同期比

(単位：百万円)

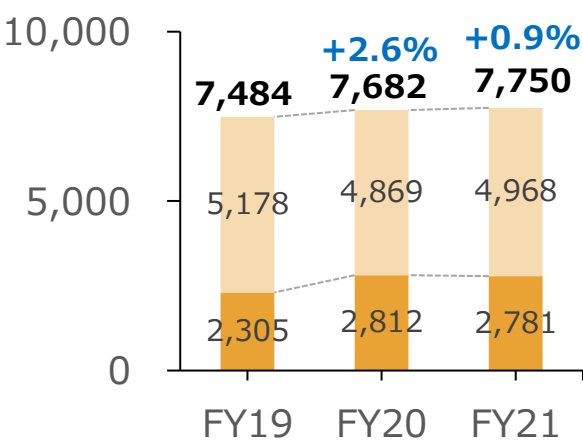
マニュファクチャリング



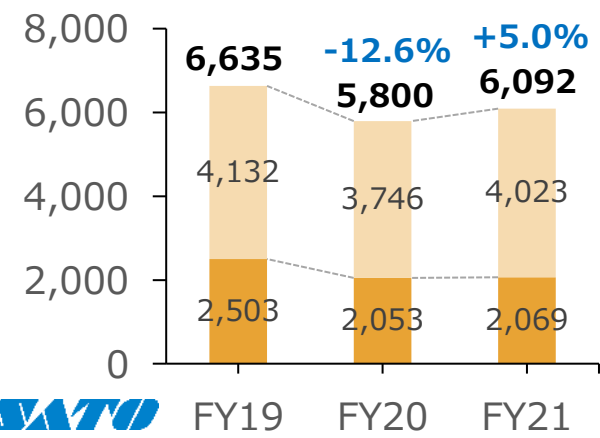
ロジスティクス



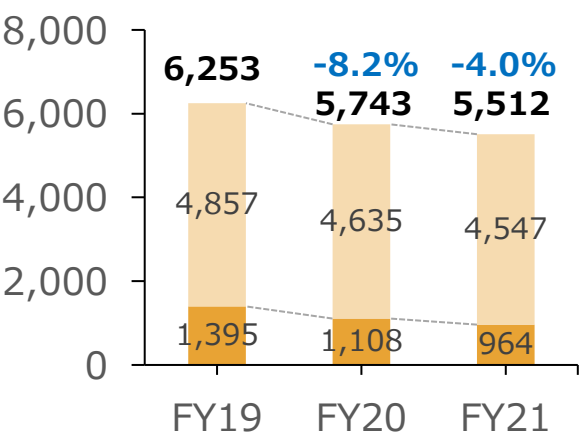
リテール



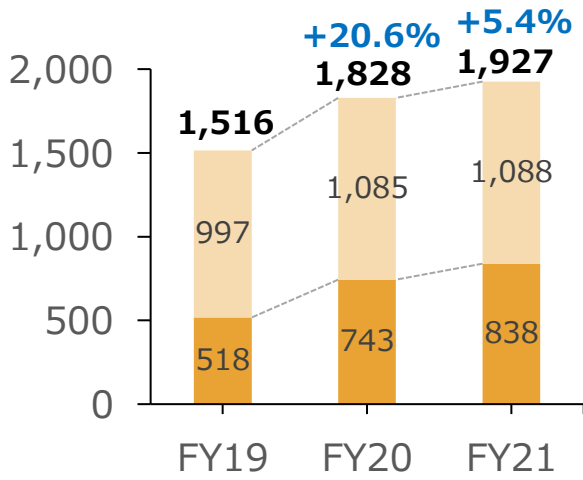
ヘルスケア



フード



公共

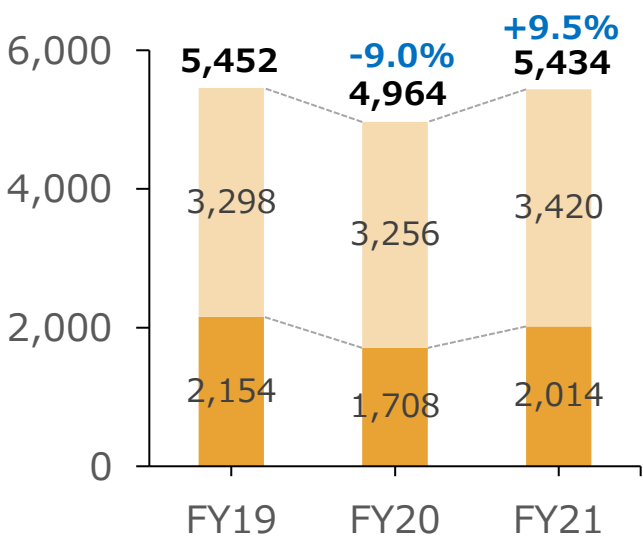


市場別売上高推移（1/2）

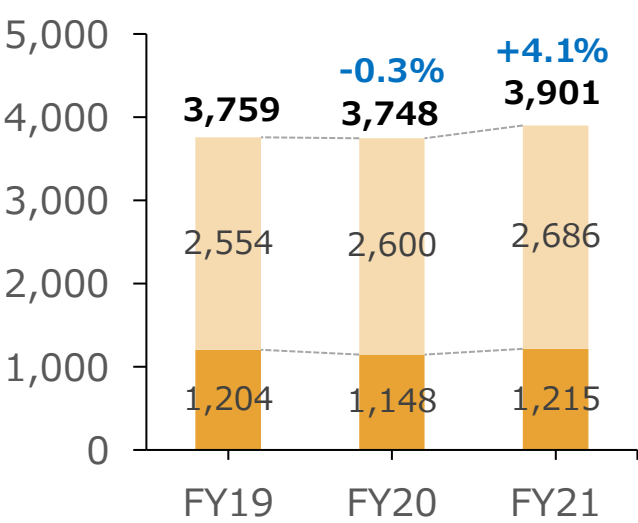
■：メカトロ ■：サプライ ※%は前年同期比

（単位：百万円）

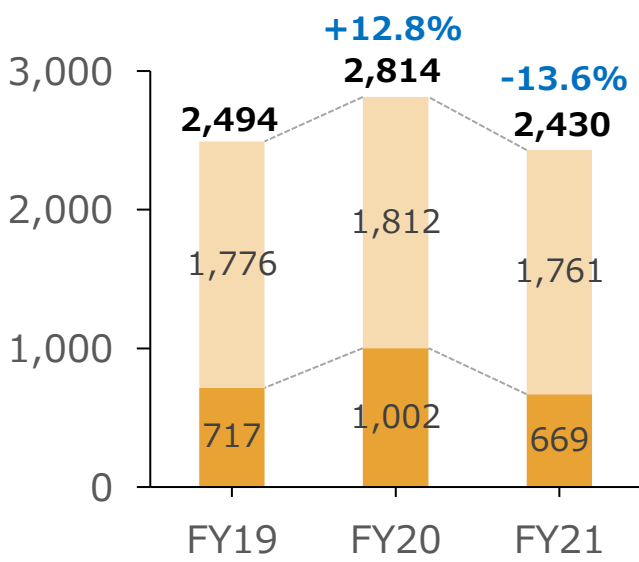
マニュファクチャリング



ロジスティクス



リテール



事業環境
半導体の需要増から、関連する化学業界や電子部品は好調。一方、自動車や鉄鋼業界は生産活動が停滞

ECの拡大や巣ごもり需要の継続に各業界が対応。自動化やDX化などへのニーズが引き続き増大

食品スーパーの需要拡大は一服も、DX化や効率化、EC化など必要な投資は継続。EC業界は引き続き活況

当社状況
サプライは好調業界がけん引して伸長。メカトロは、人手不足やDX化への対応ニーズでRFIDなどが好調。回復基調を継続

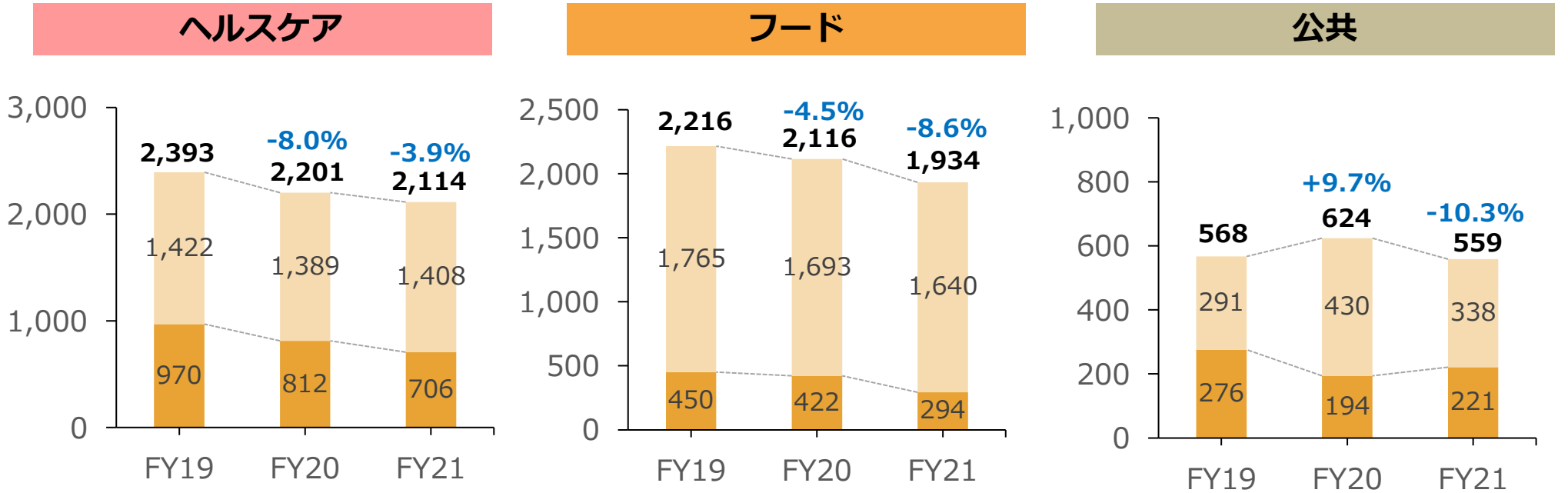
サプライは物量増がけん引してほぼすべての業界で伸長。メカトロは出荷工程の自動化や、RFIDによる入出荷管理のDX化に対する支援が貢献して伸長継続

サプライは、食品スーパーの巣ごもり需要の一服感などから微減。メカトロは人手不足対応などニーズは継続も、前年同期の大口案件の剥落により減少

市場別売上高推移（2/2）

■：メカトロ ■：サプライ ※%は前年同期比

(単位：百万円)



事業環境

医療機関への外来者数はほぼ横ばいで推移。管理業務効率化や人手不足への対応など、全般に需要は底堅い

当社状況

サプライは医療機器や医薬品の製造業界からの需要回復が寄与して微増。メカトロはコロナ禍での営業活動制限やプリンタの供給制約により減少

事業環境

法令対応や品質管理意識向上、人手不足を背景に、トレーサビリティや業務効率化などの需要が継続

当社状況

サプライは食品製造の巣ごもり需要の一服感などから減少。メカトロは外食が回復も、前年同期にあった製造業の大口案件の剥落により減少

事業環境

全般に外部環境は安定

当社状況

サプライは全般に例年並みに推移するも、前年同期の大口案件の反動により減少。メカトロは大口顧客からの受注により大幅に伸長

営業利益インパクト（粗利）

コスト先行。対応策の成果は遅行して顕在化。
トータルのインパクトは、FY22下期にプラスに転換

※ 大：500百万円以上、
中：3-500百万円未満、
小：300百万円未満

	FY21 Q3累計（実績）	FY21 Q4（見込み）※
■ ネガティブ ■ ポジティブ（対応策）		
プリンタ 製造コストの上昇	約550百万円	中
ラベル 原材料価格の上昇	約600百万円	中
プリンタ 価格転嫁、コストダウン	—	小
ラベル 価格転嫁、コストダウン	約400百万円	小
・ 高付加価値ソリューション提供加速 ・ プリンタ拡販	—	中
	FY21通期	FY22通期



営業利益インパクト（販管費）

コスト先行。対応策の成果は遅行して顕在化。
トータルのインパクトは、FY22上期にプラスに転換

※ 大：500百万円以上、
中：3-500百万円未満、
小：300百万円未満

	FY21 Q3累計（実績）	FY21 Q4（見込み）※
プリンタ 輸送コストの上昇	約300百万円	小
戦略投資のスコープ拡大	約550百万円	小
販管費の効率執行	約200百万円	小

FY21通期	FY22通期
--------	--------



2021年度 業績計画

(単位：百万円)

(カッコ内は期初計画)	Q3累計		Q4		通期	
	実績	前年比	計画	前年比	計画	前年比
売上高	92,388	+16.5%	29,611	-0.6%	122,000 (117,000)	+11.9%
営業利益	4,743	+25.6%	1,656	-20.0%	6,400	+9.4%
経常利益	4,610	+32.9%	1,589	-22.5%	6,200	+12.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,952	-74.6%	1,047	-22.7%	4,000	-69.1%

<参考>

EBITDA [※]	10,163	←2020年度通期	10,800	+6.3%
---------------------	--------	-----------	--------	-------

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

FY21 想定レート : 110円/USD, 131円/EUR
 FY21 3Q累計為替レート (期中平均) : 111.13円/USD, 130.59円/EUR
 FY20 通期為替レート (期中平均) : 106.10円/USD, 123.75円/EUR

Appendix

補足資料 P.30～P.33

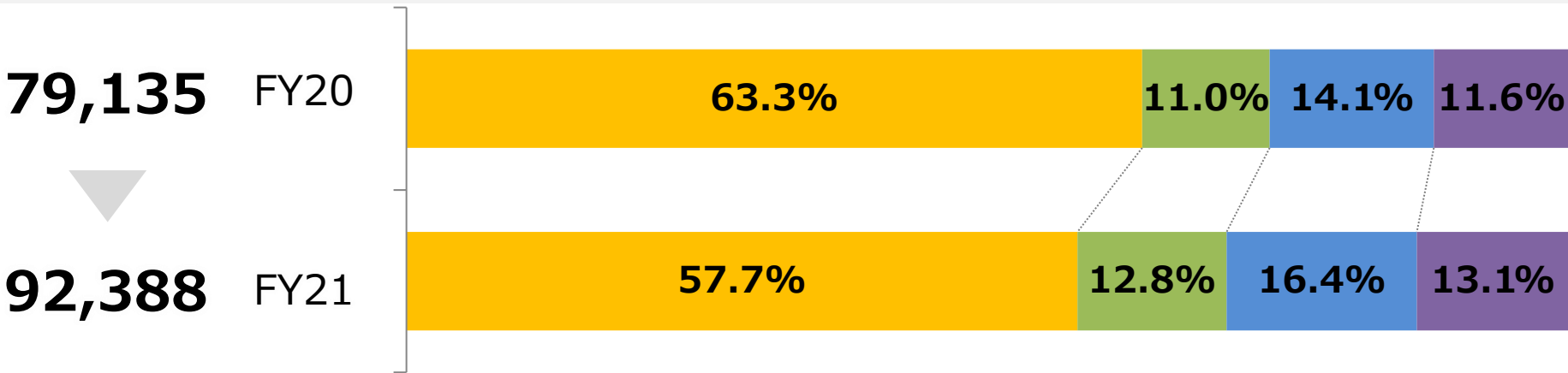
用語集 P.34～P.37

地域別売上高及び営業利益構成

(単位：百万円)

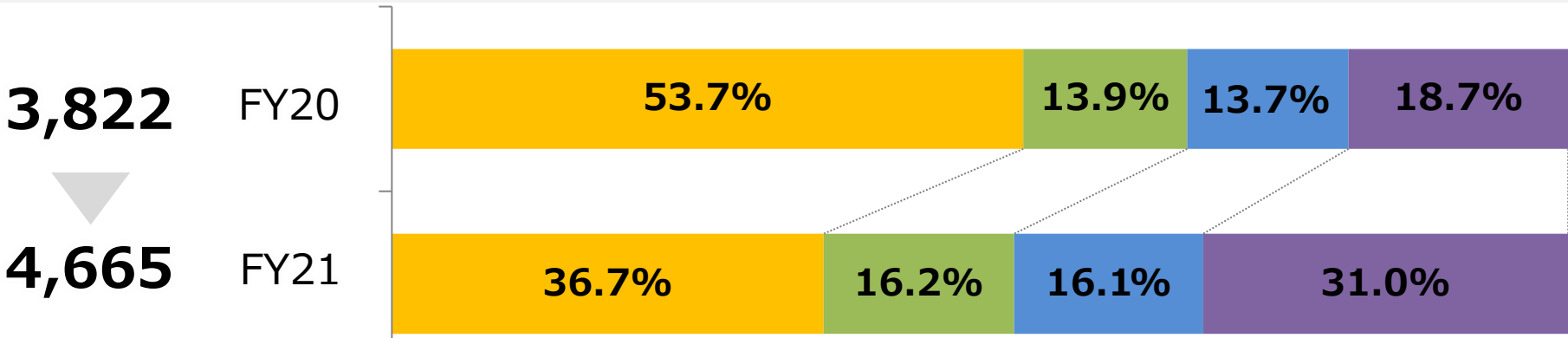
日本 米州 欧州 アジア・オセアニア

売上高



営業利益

*割合は消去を除く



営業利益率 FY20 日本：4.0%、海外：6.2%
FY21 日本：3.2%、海外：7.6%

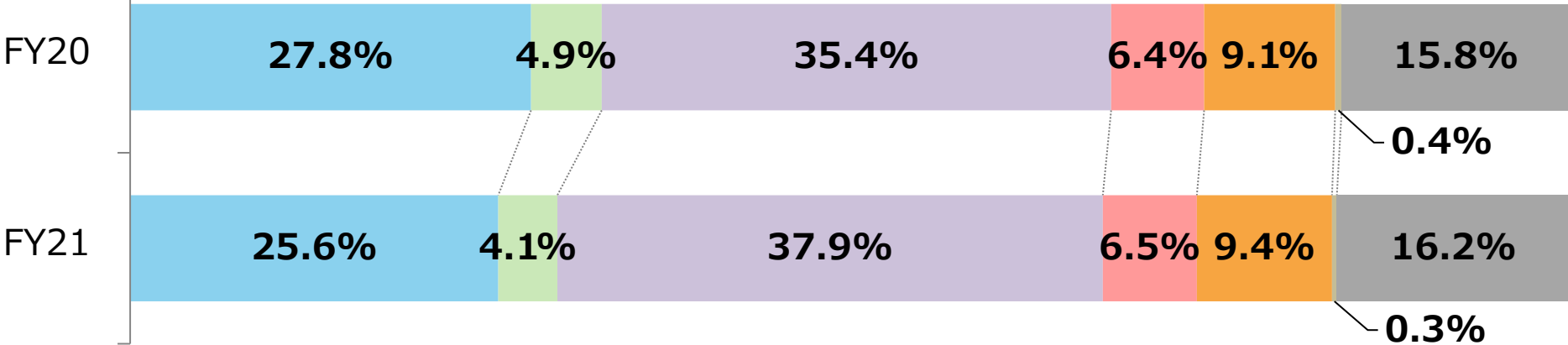


市場別売上高構成

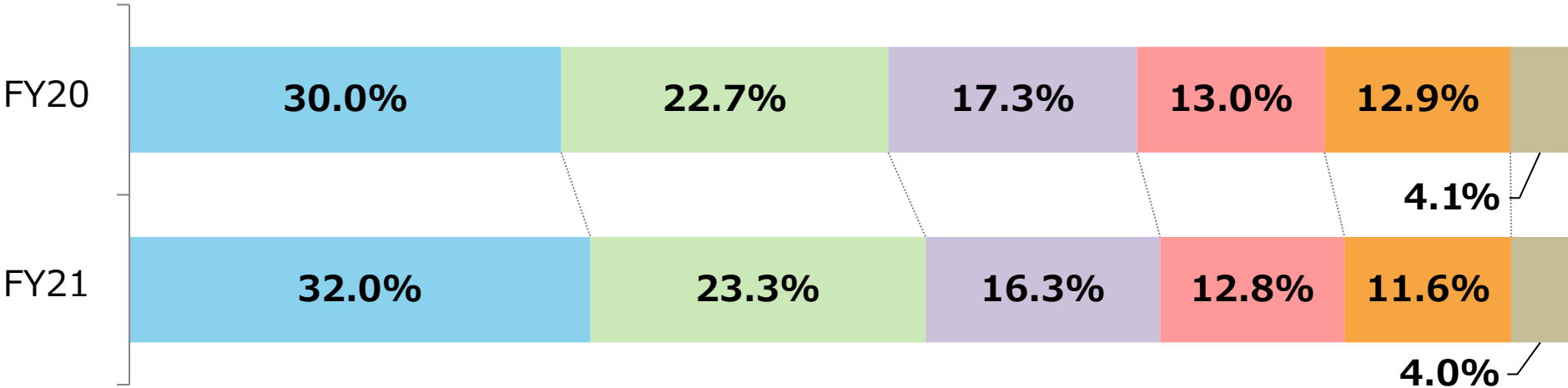
■ マニュファクチャリング ■ ロジスティクス ■ リテール ■ ヘルスケア ■ フード ■ 公共 ■ その他

海外 *主な販社。工場・プライマリー専業会社は除く

注：2021年度より一部販社の市場区分を改定。2020年度数値は遡及修正後



日本 *保守等は除く



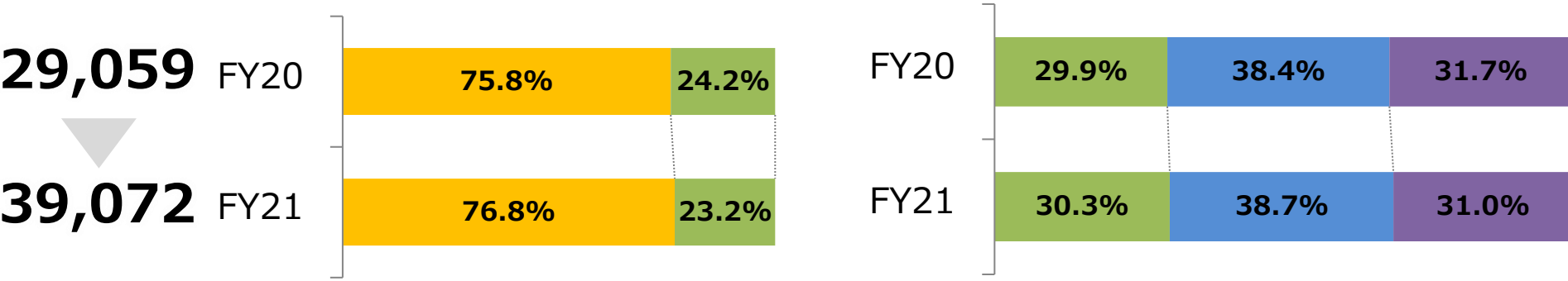
売上高及び営業利益構成（事業別・地域別）

（単位：百万円）

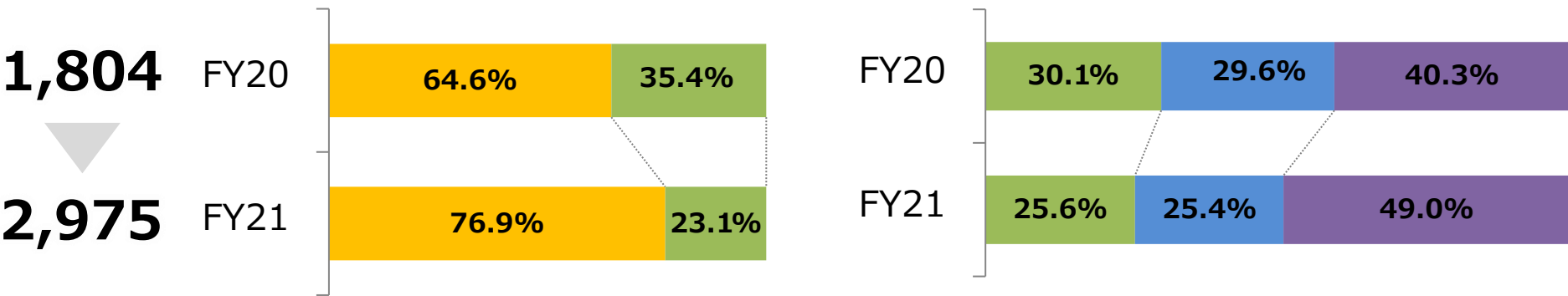
■ ベース ■ プライマリー

■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア

売上高



営業利益 *割合は消去を除く



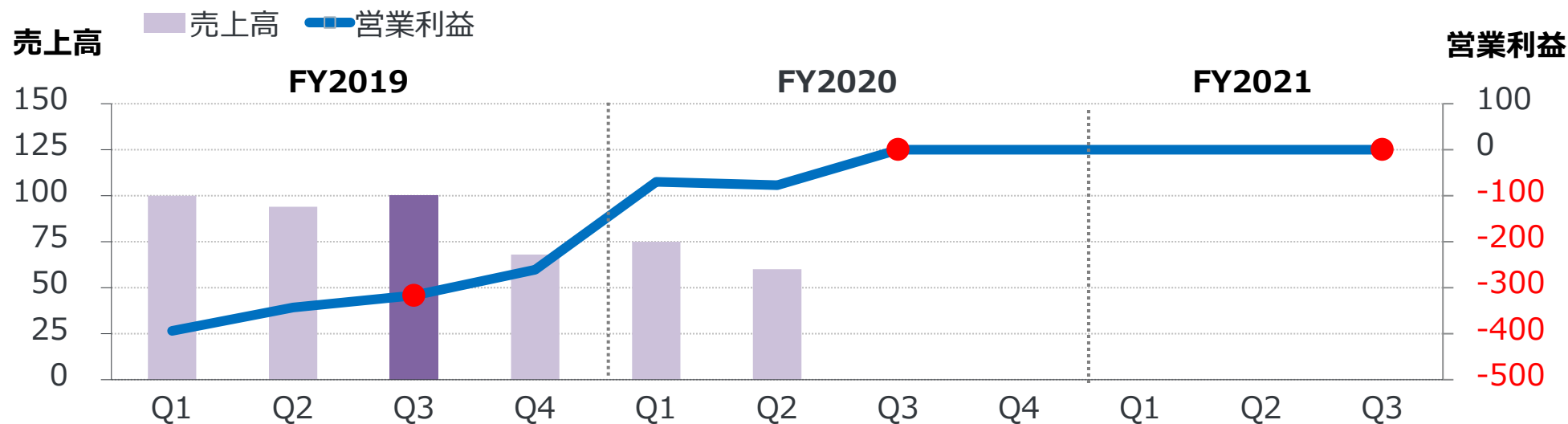
営業利益率：
FY20 ベース：5.1%、プライマリー：8.8%
FY21 ベース：7.5%、プライマリー：7.4%

FY20 米州：6.0%、欧州：4.6%、
 アジア・オセアニア：7.6%
FY21 米州：6.3%、欧州：4.9%、
 アジア・オセアニア：11.8%



売上高・営業利益 推移

(単位：百万円)



売上高	100	94	100	68	75	60	0	0	0	0	0
前年比	-20.0%	-10.0%	-13.8%	-15.5%	-24.6%	-35.9%	-	-	-	-	-
営業利益	-394	-343	-317	-261	-70	-77	0	0	0	0	0
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

用語集（1/4）

サトー独自のコンセプト/取り組み		説明※
1	自動認識ソリューション事業	DCS & Labeling+Oneを展開。具体的には、お客さまの課題に基づいて自社で開発・製造したバーコードプリンタやラベル、自社で設計したソフトウェアやサービス、外部パートナーの技術や商品などを組み合わせて提供。本事業は海外と日本に区分され、海外はベース事業とプライマリー專業から構成される。
2	ベース事業	バーコードや商品価格、製造年月日、消費期限など可変情報をタギングするビジネス。
3	プライマリー專業	商品ラベルなどの固定情報ラベルをタギングするビジネス。Achernar（アルゼンチン）、Prakolar（ブラジル）、Okil（ロシア）、X-Pack（ロシア）の4社からなる。
4	IDP事業	IDP (Inline Digital Printing) に関わる開発・製造・販売。2020年9月、本事業を推進していた連結子会社 DataLase Ltd.の全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡。 IDPとは、感熱顔料を含む塗料をさまざまな基材に塗布し、レーザー照射による発色でダイレクト印字ができる印刷技術。
5	コト売り	商品の単品売りではなくハードウェアやサプライ、保守サービス、ソフトウェア等を組み合わせたソリューションを、ROIの提示を含めて提案する売り方。単品売りの「モノ売り」に対する概念。
6	タギング	お客さまの現場で人やモノにIDや位置などの情報を物理的にひも付けし、それを上位システムに受け渡すこと。すなわち現物と情報を一致させ、デジタル化された情報を活用できるようにする作業。 この「現物と情報の一致」は、商品に価格等の情報をひも付けするハンドラベラーの時代から続くサトーの事業コンセプト。
7	DCS & Labeling+One (DCS: Data Collection Systems)	DCS & Labelingは、バーコードやRFIDなどの自動認識技術とプリンタやラベルなどの商品・サービスを活用して、さまざまな現場にある人やモノの情報（=Data）を正確かつ効率的に収集（=Collection）する仕組み（=Systems）と、情報を最適な形でひも付けするタギング（含むLabeling）を提供するサトーグループのビジネスモデル。 DCS & Labeling+Oneは、お客さま課題の高度化を受けて、オープンなイノベーションやパートナーシップを活用し、本ビジネスモデルに画像認識・音声認識や位置測位技術、センサーなど（=+One）を組み合わせてお客さま課題の解決手法をさらに向上させる取り組み。

用語集（2/4）

サトー独自のコンセプト/取り組み (続き)		説明
8	Tagging for Sustainability	<u>DCS & Labeling</u> と同様にタギングを核としながらも、ラベルにとどまらないさまざまな技術・手法を取り入れた、高度化した <u>タギング</u> でお客さまの経営課題や社会課題を解決し、持続可能な世界への貢献をめざす <u>DCS & Labeling</u> を進化させたビジネスモデル。
9	現場力	さまざまな市場・業界のお客さまの現場と向き合い、運用を理解し、課題の本質を捉えて最適な解決策を提供する力。カバレッジ(現場を知ることによって蓄積された幅広い「市場×業界×用途」の課題へ対応する力)、インテグレーション(戦略パートナーとの共創に基づき、商品・サービス・技術を統合して提供する力)、メンテナンス(継続的なソリューション提供でお客さまの信頼を醸成し、深く、長い関係を構築する力)の3つの要素で構成される。
10	三行提報	社員が現場でキャッチした、会社を良くするための情報やアイデアを約三行（100～150文字）にまとめて、毎日経営トップに直接提出するサトー独自の取り組み。経営トップはいち早く社内外の環境変化を把握し、迅速な意思決定や必要な施策を講じ、社員は経営者と同じ目線で物事を考える「全員参画の経営」に寄与。また経営トップに直接提出することから、不正や不適切な行為などを防ぐモニタリングとしての役割も担っており、コーポレートガバナンスの面においても効果を発揮。 1976年から始まり、近年は海外拠点の導入も増えている。
商品・サービス・技術		説明
1	メカトロ商品	プリンタやラベル自動貼付機器、スキャナ、ハンドラベラーなどのハードウェア、ソフトウェア、保守サポートなど、 <u>サプライ商品</u> 以外のすべて。粗利率は <u>サプライ商品</u> よりも高い。プリンタはマレーシア、ベトナムおよび台湾にて製造。
2	サプライ商品	<u>可変情報ラベル</u> 、 <u>RFIDタグ</u> 、プライマリーラベル（商品シール）、リボンなどの消耗品。粗利率は <u>メカトロ商品</u> よりも低いが、リピートビジネスのため販売管理費率は小さい。

用語集（3/4）

商品・サービス名・技術（続き）		説明
3	自動認識ソリューション	<u>DCS & Labeling+One</u> を実現するための商品・サービス。具体的にはプリンタ、ラベル、ソフトウェア、保守サポートなどの組み合わせ。加えて、近年は複雑化・多様化するお客さま課題に応えるために自前主義に拘らず、パートナーシップを推進することにより実現を目指す。例えば位置測位技術を用いて人・モノの位置情報を取得し、作業人や在庫の動きをリアルタイム捕捉することで、工数・作業時間の見える化や製造工程進捗管理を実現。
4	SOS (SATO Online Services)	お客さまのプリンタをクラウドに接続して遠隔でモニタリングを行うサービス。これにより予防保守やエラー時の早期復旧が可能となる。またお客さまはプリンタの稼働・活用状況を一覧でき、資産管理が容易となる。 一方サトーにとっては、予防保守の実現による保守人員の労働生産性向上や、保守人員が少ない海外におけるサポート向上に寄与。
5	AEP (Application Enabled Printing)	プリンタに内蔵された知能がラベル発行作業を最適化。PCを介さずにプリンタ単体で他のシステムとの連携も可能。
6	可変情報ラベル	バーコードや商品価格、製造年月日、消費期限など、お客さまの現場で必要に応じて変化させる情報を印字する用途のラベル。必要な時に必要な分だけ発行できる点が、固定情報を一度に大量印刷するプライマリーラベル（商品シール）との大きな相違点。
7	RFID (Radio Frequency Identification)	自動認識技術の一つ。電波を利用してデータの読み書きを行い、①複数一括読み取り、②非接触での読み取り、③遮蔽物や汚損があっても可能な読み取り、④情報の書き換え、といったバーコードには無い特性を持つ。これにより、業務効率の飛躍的な向上が可能。

用語集（4/4）

2012年以降に買収した 主な会社		説明
1	Argox Information Co., Ltd. (台湾)	2012年に買収したエントリー・モデルのプリンタの開発・製造・販売子会社。
2	Achernar S.A. (アルゼンチン)	2012年に買収したプライマリ専門子会社。
3	Magellan Technology Pty Ltd. (オーストラリア)	大量のRFIDタグを高速かつ正確に読み取ることができ、金属や液体の影響、および積層状態での読み取りに強いなどの優位性の高いRFID技術「PJM (Phase Jitter Modulation)」を含む同社の事業を2013年に譲り受け、SATO Vicinity Pty Ltd.を設立。
4	Okil-Holding, JSC (ロシア)	2014年に買収したプライマリ専門子会社。サトーホールディングスが75%を保有。同国のX-Packは関連会社。
5	Prakolar Rótulos Autoadesivos LTDA. (ブラジル)	2015年に買収したプライマリ専門子会社。
2017年以降に設立した 海外子会社		説明
1	X-Pack (ロシア)	シュリンクスリーブ、インモールド、軟包装の製造・販売を行い、サトーホールディングスが60%の株式を保有するプライマリ専門子会社。2017年設立。
2	SATO Productivity Solutions Mexico S.A. de C.V. (メキシコ)	自動車産業に焦点を当てて事業を展開し、サトーホールディングスがほぼ100%の株式を保有する販売子会社。2019年設立。

【本資料ご利用にあたっての注意事項】

- ・ 本資料に記載の内容は全て2022年2月現在の情報をもとに作成したものです。
- ・ 本資料に記載の内容は予告なく変更することがあります。
- ・ 本資料で使用する商標、ロゴ、商号に関する権利は、当社またはそれぞれの権利の所有者に帰属します。
- ・ 本資料の内容に関する一切の権利につきましては当社に帰属し、本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断り致します。